

私たちのシュウカツ

安城特別
支援学校の1年

期待に胸を膨らませ、やや不安も抱きながら新社会人が一歩を踏み出す季節がやってくる。知的障害のある児童生徒が通う安城市の県立安城特別支援学校の高等部からはこの春、六十四人が卒業。このうち十五人が一般企業へ就職する。就職を決めるまでに、生徒や保護者にはさまざまな葛藤があり、教員も悩み、時に迷う。生徒たちの日々の姿や、支える教員と保護者の思い、障害者雇用の現場などを、安城特別支援学校の取材を中心に随時紹介していく。

卒業 新たな一歩 (上)

四日、同学校で開かれた高等部の卒業式。新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、安楽孝幸校長が各クラスを回って卒業証書を手渡す、いつもとは違う式になった。それでも生徒たちは「及たたとたんさん話せるから、こっちの方がいいかも」と笑いながら、スマートフォンで写真を撮り、別れを惜しんだ。

作業を黙々とこなすのが向いている、洗濯や食器洗いをするのが好き、整理整頓は苦手、導く作業が急に飛び込むと混乱する。就職を目指す生徒たちは、授業中の様子や担任教員との面談などを通して、それぞれ得意なことや苦手なことを見極め、就職活動に打ち込んでいた。



金風浴接会社に採用が決まった中田陽さん(左)。高三年の秋の実習時には、

「君らなら大丈夫だ」

保護者や教員に向け歌う卒業生ら
卒業式で担任へ感謝の気持ちを伝える生徒ら
いずれも安城市桜井町の安城特別支援学校で



卒業生ら、保護者や教員に向け歌う卒業生ら

作業のスピードがなかなか上がらず「本当にやっついていけるのかと悩んだ」。実習とはいえ、実際の作業現場には授業とは違う緊張感が漂う。思い詰めて担任の先生に相談すると、「先のことばかりを心配をしてもしょうがないよ。今を頑張ればいいんだから」と励まされた。「あの言葉に助けられました」

「洗濯物を干したりたたんだりするのが好き」という浅川光さん(左)は、春から学校給食の調理場で働く。「優しい人が多いから大丈夫だ」

安城特別支援学校
知的障害のある児童生徒が通う県内最大の特別支援学校。1978年、県立安城養護学校として小学部8学級、中学部3学級で開校。翌年に高等部1学級が新設される。2014年、安城特別支援学校に校名変更。19年4月現在で小学部26学級、中学部18学級、高等部29学級に計421人が在籍する。生徒の通学区域は安城、西尾、刈谷、碧南、高浜、知立各市。学校所在地は安城市桜井町。

「自信を持ってやるんだよ」「その笑顔があれば大丈夫だ」。式を終え、職員らの拍手に送られて誇らしそうに花道を歩く卒業生の姿を見ながら、教員の一人がつぶやいた。「負けるな。君らなら大丈夫だ」。三年間の頑張りを間近で見てきたからこそ、祝福の中に祈るようなエールがにじんだ。「でも、もしもつらいことがあったら、いつでも学校に顔を出せよ。一人で抱えるな」

(この連載は四方つきが担当します)